

令和7年度 第2回 廿日市市協働によるまちづくり審議会 会議要旨

- 1 日 時：令和7年11月28日（金） 18：30～20：30
- 2 場 所：廿日市市役所7階会議室
- 3 出席委員：12人（50音順）
石川夏香、太泰淑史、蒲田智美、児玉貴広、
佐々木こひな（リモート）、二宮理、早川幸江、林田隆幸、
村上恭子、森川克己、山川肖美、吉田麗（リモート）
欠席委員：3人
事務局：地域振興部長 光井
地域振興課 川崎、松島、齋藤、村山
傍聴者：2人

（次第）

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 議事
（議題1）第4期廿日市市協働によるまちづくり推進計画（案）について
- 4 その他
- 5 地域振興部長挨拶
- 6 閉会

（配付資料）

- （1）会議次第
- （2）資料 1 第4期廿日市市協働によるまちづくり推進計画（案）
- （3）資料 2 審議会及び庁内意見の第4期計画（案）への反映一覧
- （4）資料 3 第4期協働によるまちづくり推進計画策定スケジュール（案）

1 開会

〔事務局〕

令和7年度第2回審議会を開会する。委員15名中12名の出席で過半数に達し、会議が成立している。また、協働によるまちづくり基本条例の規定により、本日の会議の内容は公開する。終了時刻は20時30分を予定している。

2 会長挨拶

〔会長〕

ここまでの振り返りをしっかりと行い、課題や成果について、本日議論するようになっているため、皆様と一緒に検討できればと思う。

今までの計画の延長で考えていける部分もあれば、このようなまちにしたいという議論の末、新たに加える必要がある部分も出てくると思っている。本日、総合的評価ということで振り返りも行うので、そこも大事にしたいと思う。

皆様が3年後5年後、どういう廿日市市になっていきたいか、どういう生活をしていきたいかといったことを想像していただきながら、議論ができればと思っている。

本日はどうぞよろしくお願いする。

この協働のまちづくりが、行政のいろんな課題に横串を刺すとよく言われているが、地域を耕して、地域に少しでも関わっていく人や色んな層の人が、地域を舞台に何かできるようにこの場でも考えていければと思っている。

今日が第2回の審議会で、あと1回で、今回の協働のまちづくりの計画については、決定という形になるため、時間の限り、皆さんから積極的なご意見をいただきたい。

3 議事

〔事務局〕

【資料1・2・3について内容説明】

〔会長〕

議題1「第4期廿日市市協働によるまちづくり推進計画（案）について」ということで、「第4期協働によるまちづくり推進計画（案）」に対して、ご質問・ご意見をお願いします。

〔A委員〕

イラストについて、差し替えがあると話が合ったが、現状のものも素敵だと思う。また、事例をこういった形で入れてもらえるのは非常にわかりやすくてよい。

〔B委員〕

市民とまちづくり活動団体がつながって、「はつかいちが好き！」といえるまちを目指しているのだと思うが、自分のようにアートでスポンサーを募って活動している団体もまちづくり活動団体なのではないかと考えている。そのような人がどこに相談したら良いかがこの計画でわかるとよい。

〔会長〕

地域を越えて、アートや環境などのテーマでつながろうと思ったときの相談先としては、市民活動センターがそういう役割を持っていると思う。そういった相談をきちんと受入れる機能があるのかどうか。また、市民活動センターの役割を改めて計画に入れるかどうかになると思うが、いかがか。

〔事務局〕

すぐにお答えはできないが、どこが窓口になり、そこで解決できなかった場合に、どこが連携してどうつないでいくかがわかりやすい計画にしていけるために検討したい。

〔会長〕

実際やってみようと思ったときの道筋を図示できると、よりよいのではないか。

〔C委員〕

相談窓口の件について、私は市民センターの管理もしているので、今の意見は自分にも刺さるものだった。市民センターへの問合せをどうつないでいくかは非常に大切だと考えているため、計画への反映も是非お願いしたい。

11 ページや 15 ページに載っている令和 12 年度の目標値を矢印にしているが、本当にこれでいいのか。

〔事務局〕

前年から少しずつ上げていくことを目標にするという意味での矢印だが、初めて見る人は矢印だと理解できないという意見はごもっともである。

来年度にならないと把握できない数値のものについては、把握した時点で、目標値を考えようと思っている。今、矢印にしている部分についても、わかりにくいということであれば、令和 12 年度の目標値を入れる方向で考えていく。

〔C委員〕

成果指標の目標値の年度を記載すると、その年度の目標値が必要となるので、年度を決めるのではなく、段階的に上がっていく経過を表せるのであれば、わかりやすくなると思う。

〔事務局〕

成果指標の矢印については、こちらとしてもこのままでいいのかどうか考えていたため、もう少しわかりやすいものに変えていきたい。

〔D委員〕

目標値の矢印について、目標値が年々上がっていくというのは理解できるが、目標値を設定しないというのは、令和12年にどうなっているかというイメージも作れていないということか。令和12年までの6年間にどこまで持っていきたいか、具体的な数字が入っていた方がそこに向かっていきやすいのではないか。

〔事務局〕

おっしゃるとおり、目標値があってそこに向かっていくのが理想的である。

目標値を矢印にした理由は、目標値を設定するときに根拠をみつけることができなかったためである。しかし、最終的な目標の数値があった方がいいと感じたため、それを踏まえて考えていきたい。

〔会長〕

見る人からしたら目標値が入っているものと入っていないものの差がわからないのだと思う。目標値を入れるか入れないかは統一させるべき。

〔D委員〕

職員の間の協働も入れてほしいと毎回言っているが、反映されているのか。

〔事務局〕

いろいろ反映はしている。9ページ目にもその要素が入っている。地区や地域、地域のまちづくりの拠点である、市民センター、支所、本庁、市活センターやあいプラザのような拠点それぞれが把握している情報を共有して、地域のことを理解し、市民の方の要望に応えられるようにしていこうという思いを入れている。

〔事務局〕

15ページの現状分析でも、「市の職員がもっと地域のことを知ること、効果的にまちづくりが進められる」や、「市の職員同士が連携を強めて、情報共有することで、市民の協働も進んでいく」のように、いただいた意見を入れている。

それに対して、引き続き研修などで、職員の意識醸成を図っていききたいということも入れている。

〔会長〕

9ページの地区や地域のまちづくりの拠点という表現だと、市民はわからない。例としてそこに市民センターとか、具体的な場所が入っていると、理解度が変わるだろう。市の職員が普段使われてる言葉と、市民がとらえてる言葉が違うかもしれないので、その表現を考えていただきたい。

〔事務局〕

市民にも読み取ってもらえるようなものにしていきたい。

〔E 委員〕

18 ページの大野の有償ボランティアについて、これは大野の人だけ対象なのか、違う地域からお願いしてもいいのかどうなのか。

〔事務局〕

大野 2 区のサロンが発祥の活動である。基本的には、大野 2 区の依頼が多いみたいだが、そこ以外から要望があっても困った人がいれば依頼を受けているケースもあると聞いている。

〔事務局〕

あくまでもこれは参考事例で、こういう活動が各地で起こる手助けの事例として挙げている。

〔F 委員〕

年間ページビュー数の目標値が 500 万回となっているが、5 年経って、ちょっとしか増えないというのは、余りにも目標値が低すぎるのではないか。

また、ホームページが非常に見にくく、分かりにくい。その改善も行わなければ、本当に寄り添ったホームページにはならない。

さらに、市民センターは、センターの運営やセンターの利用をどうするかに関してなど公共性が高い相談がメインで、個人的な相談に対しては、それほど踏み込むことがなく、協働につながらない。協働に力を入れていくなら、公共性があまりない活動の相談も受けるように指示をしなければいけないと考える。

〔会長〕

ホームページの年間ページビューの 500 万回は根拠があるのか。

〔事務局〕

未来ビジョン 2035 に掲げる予定の数値と合わせており、その担当課との、根拠のすり合わせは現在できていない。

今、ご指摘いただいたように、見やすいものにしていくべきだと考えている。

〔会長〕

5 年間・10 年間の計画の中で、ホームページだけ見て情報を得るわけではない。

例えばラインを通して、このイベントに何人来たかとか、その割合が上がっていく経過なども一緒に考えていく方がよいのではないか。ホームページだけだと、相当な頻度で更新していかないといけなくなってしまうと思う。

一方で未来ビジョンの方は、施策をすべて網羅しているものなので、ホームページを指標にしても良いと思う。

数値そのものの検討というよりも、協働のまちづくりの情報発信の媒体としてホームページで本当にいいのかどうか検討が必要。

また、市民センターとの協働・連携も進めていただきたい。

〔A委員〕

宮島だけのケースかもしれないが、会議やワークショップをする際に、プロのコーディネーターの方に委託しすぎだと意見が出ている。本当に宮島のことを知っておられるのか疑問に思うようなコーディネーターの方がすごく多い。コーディネーターが多すぎて、何の会議に出てるかわからない。

私としては行政と島民が協働して、外部のコーディネーターに依存せず、自分たちの地域でやっていきたいと考えている。

〔事務局〕

円卓会議は、人数や関わる方など、いろんな形があると思っている。そこで、職員がコーディネートやファシリテートをできるようにスキルアップをしていかないといけないということは計画にも記載している。

しかしながら、会議の規模によっては、専門家など外部の人材に、お願いすることがあると思う。外部の人材もうまく活用しながら、全ての会議が外部の人材任せにならないように、職員のレベルアップをしていきたい。

〔会長〕

廿日市市では円卓会議がいつから始まったのか。あえて条例に円卓会議を載せている市はあまりない。

〔事務局〕

平成12年にコミュニティ推進プランを作った頃に、すでに円卓会議という手法はあった。

〔会長〕

平成12年からは25年たっているので、円卓会議の形も地域によって、様々変わってきているのではないかと。計画に一つ一つの地域の実情を書くのは難しいと思うので、円卓会議を今後も大切にして、地域の実情に合わせた円卓会議の形を作っていきたいと思いますといった旨のことは書いてほしい。

〔F委員〕

先ほどのコーディネーターの話は、私も1つ経験した。防災等の会議で、コーディネーターの答えありきでワークショップを開いて、そこへ導くために、我々の意見は全く聞いていない。そのようなワークショップなら私はやらない方がいいと思っている。

答えありきのワークショップよりは、地元の意見をしっかり聞いて欲しい。

宮島の円卓会議でも、すでに用意された答えに導くための会議になっているのだと思う。そういった場では反対の意見が言いにくい、何も意見を言わないのではなく、本庁や支所に相談するべきだと思う。

〔C委員〕

前回、私も円卓会議に非常に苦労していると言ったが、その会議が何の意味があるのかを、職員・市民も含めて理解しておく必要があると思った。

今言われたように、私も円卓会議をする中で、答えに導くようにやっていたので反省したい。

〔会長〕

C委員は円卓会議の参加者とも共通点があるし、浅原のことをよく知っているの、皆さんも仕方ないと思ってくれているだろう。外部の方は皆さんと共通点がない中での言葉なので、同じ言葉を言ったとしても受け取り方が変わってくる。

計画ができた後、円卓会議のあり方や必要性の認識を広く行う必要がある。

〔事務局〕

前回の審議会が終わった後に、G委員から円卓会議についてのメールが届いた。審議会の中で、円卓会議の敷居が高いという話があったが、これから円卓会議を浸透させていくためには、円卓会議にポジティブなイメージを持ってもらえるようにしたほうがいいと思うという旨のメールをいただいた。

今回、円卓会議の参考事例を作る際に、地域ならではの、和気あいあいとした会議がいろんな地域で開かれたらいいなと思った。そういう会議に市の職員も参加して、これが円卓会議なんだ、いい会議だなと思ってもらえるように、計画に掲載して、職員に浸透させていきたいと思っている。

〔G委員〕

まちづくりだけではなく、別の分野で開かれたワークショップなど、別の方向から地域の良さがわかるきっかけになるものも円卓会議として認識していけば、円卓会議の敷居が下がり、地域のよさを知ってもらえて、学びの場になるのではないかと考えている。

〔会長〕

地域の課題 1 つをもとに話をするとなると、限られた人しか集まらない。楽しいしゃべり場にしたり、困ったことを言いに行く場所にするなどして、円卓会議の敷居を下げることも大切。

若い人がなかなか来ないと皆さんおっしゃるが、入りづらいのだと思う。どうやったら入りやすいかについても、意見をもらったので、計画に反映できればいいと思う。

〔H委員〕

目標値について、現況値が令和 7 年と令和 6 年で異なっているが、そろえた方がいい。

先日、商工会議所に相談に来た市民の方に、市民センターに相談したらどうですかと言っても、行きたがらないことがあった。まちづくり拠点や相談するところを市民センターとするならば、聞く耳を持って、市民の方に寄り添える体制を作ることが先だと思う。

市民の方が商工会議所に来ることはほぼないが、市役所から言われたから、こちらに来ましたということはある。市民センターを相談窓口や拠点であると計画に記載するならば、体制や意識を皆さんで共有するべきだ。

〔会長〕

皆さん同じ意見を持っている。市の職員が協働をしっかりと理解して、行動するべき。

〔I 委員〕

計画の中では円卓会議が重要なところだと思う。円卓会議は地域の皆さんが参加して話をするというところがいいところであり、そこにコーディネーターが入るというのは違うと思っている。

情報発信の成果指標について、SNS を活用する上で市民にとって身近な LINE も大切だと思う。

市民センターには、そこで活動するクラブが多くあり、それぞれの市民センターで活動しているクラブ同士の横つなぎや情報交換、交流ができれば、協働につながるため、市民センターはまちづくりの大切な拠点だと思う。

〔J 委員〕

はじめは「協働」など難しい言葉は理解できずに、参加していたのだが、会議に参加していくうちに、理解できるようになり、廿日市市で、このようにたくさんの方が、活動に参加されていることに驚き、すてきだなと思った。

この計画の内容も担当の方が、皆さんの意見をしっかりと反映させていて、大変思い入れのあるものになっている。そのため、この計画を廿日市市の一般の方など、たくさんの方に見ていただきたいと心から思っている。

この計画の中で、22 ページからの「未来への提案」は良いと思った。温かみのある雰囲気、皆さんが温かい気持ちで計画を作られたというのが非常に伝わってくる。私はアンケートに答えたことはないが、アンケートに答えてくれる方もこんなにして、廿日市市で活動してる人がこんなにいるのだと、伝わってくる内容になっているため、新しくできるこの計画が、もっとたくさんの人の目に触れるようになって欲しいと思っている。

〔会長〕

全体デザインにも、もう少し温かさが加わって、市民の方が手に取りやすいようなデザインになると思っている。

〔K委員〕

私は町内会デビューをしてから7年目になるが、それまでは一切関わってこなかった。この立場になって初めてこのような会議に参加するようになり、推進計画のことなどを知ることができた。

私と同じように多くの人はこの計画を知らないのではないかと。計画の中身を皆さんが精査されて立派なものになっているのに、これが知られていないというのは本当にもったいない。計画を知ってもらおうというのも大事だと思っている。

無関心層というのは非常に多くいて、そういった人たちをどうやって引き込んでいくかということに今、非常に苦労している。

月に1回開催して、今までに210回ほど開催された円卓会議のようなものがあるが、私が入ったときには参加するメンバーが数人しかいなかった。当初は年代が若い人が集まって何かの目標に向かって、行っていたようだが、その目標が終わってしまい、今に至っている。中には、回数さえこなせば円卓会議をやったと思う人もいるようで、人を集めるのは難しいと感じている。

情報発信について、LINEは今では重要だと思っている。ホームページやLINEそれぞれに役割があり、LINEだと細かい発信が可能で、ホームページには載せられない地域の活動団体なども載せてもらえる。LINEのお友達登録の数を指標にしてもいいのではないかとと思っている。

〔会長〕

11 ページの指標は見直しをお願いする。

地域の活動に興味がある子どもたちはいるのだと思うが、なかなか学びたいことや勉強したいことと、私たちが提供できることが一致してないのかもしれない。

若い方たちは、いろいろ学びたいことや知りたいことを持っているので、ハードルを下げるという意味でも多様な場があればいいと思っている。

今回の推進計画は、前回の計画の作りと、中身や構成の仕方がずいぶん違う。また、私は他の計画の策定にも関わっているが、それとも作りが違う。計画でよくあるのは、現状分析や振り返りは、第1章に持ってきて、振り返りは全部そこで済まして、そこから新しいものに変えていくという作り。今回の計画は現状分析を書いて、そのもとで取り組みをどうするか書くという作りになっているが、それはその作りでいいと思っている。

ただ、第1期から第3期までの計画自体の振り返りや、その第1期から第3期でどのような計画をして、それが今回の第4期でどう変わろうとしてるのかの記述は、必要だと思っている。具体的には、第3期の計画の中だと、23ページのところに、第1期から第3期がどういう流れで取り組んできたのかが記してある。今回の計画では協働の現状や振り返りはできてと思うが、推進計画そのものが、どのように変わってきているのかについては追加で記述が必要。

第3期では成果指標をつけてなかったが、第4期から記載がある。なぜ成果指標の記載が必要なのかについても記述すべき。廿日市市はかなり早い段階から、協働を始めているため、その歴史や成果指標が必要になった理由を書くページが必要だと思っている。

次に計画の4ページ・5ページについて、私は前から非常に気になっていた。今のままだと、条例が載ってるだけ。

通常、条例は後ろに参考資料として載せるのが一般的だ。それが第2章の4ページ・5ページを使って、条例だけが載っているのは、理解しがたい。ここに条例を載せるのは構わないが、条例のポイントやキーワード・廿日市市が条例を作った思いなども記述し、後ろの計画につながるようにしてほしい。

また、皆さん、この計画が市民に届かないと意味がないとおっしゃっていた。届けるための方法についても、次回の3月に、委員の皆さんが納得した形で終われるように話してほしい。その方法は、概要のパンフレットやフォーラムの開催などいろいろあると思う。よろしくお願いします。

4 その他

5 地域振興部長あいさつ

〔地域振興部長〕

本当に大事な意見をいただいたので、また次に繋がる形で、修正していきたいと考えている。

情報発信の部分については、いろいろご意見をいただいたので、もう少し考えたい。

また、条例や推進計画そのものを市民の皆さんが知らないという点についても、重く受けとめている。

円卓会議やワークショップについても、なぜ皆さんに集まってもらっているのかなど、会議の意義についても伝えていく必要があると思った。

会長がおっしゃったように、今ここには、すばらしいメンバーに来てもらっているので、次はこの計画をどういうふうに皆さんにも関わってもらいながら、広めていくのかなど、このような繋がりや資源を大切にしたいと思っている。

6 閉会